

国土交通省「令和8年度まちづくりアワード〈功労部門〉」 全国20団体のうち横浜市から2団体が受賞しました！

国土交通省では、住民の積極的な参画のもと、創意と工夫を活かしたまちづくりを推進するため、昭和58年度から毎年6月を「まちづくり月間」と定め、魅力あるまちづくりに功績のあった個人又は団体に対して表彰を行っています。

このたび、「令和8年度まちづくりアワード(功労部門)」において、横浜市からは「一般社団法人吉田町^{よしだまち}名店街会」および「認定NPO法人ミニシティ・プラス」の2団体が受賞しましたので、お知らせします。

1 横浜市の受賞団体

(1) 一般社団法人 ^{よしだまち}吉田町名店街会 代表者：理事長 山下 大輔
～歴史的な街並みを活かした若手主体の取組による賑わい創出や社会課題の解決に貢献～

戦後復興期の防火帯建築が連なる街並みを活かし、若手主体で公共空間を活用したイベントを継続開催。まちの賑わい創出や認知度向上を図るとともに、害獣問題やフードロスなどの社会課題の解決、防犯・防災意識の向上、地域交流の促進、持続可能な体制強化等に取り組んでいます。



▲ 公共空間を活用したイベントの様子

(2) 認定NPO法人ミニシティ・プラス 代表者：理事長 藤岡 律江
～子ども主体の社会参画と協働が育む持続可能な地域まちづくりに貢献～

19歳以下の子どもたちが自分たちで作り・運営する「こどものまち」を通じて、社会の仕組みやまちづくりを体験的に学ぶ「ミニヨコハマシティ」や、子ども記者が地域を取材する「ジュニア編集局」など、子どもが主体的に社会を学ぶ機会を創出し、「まちづくり」を通じて大人も子どもも学びあうことを目指しています。



▲ ミニヨコハマシティ 2025の様子

各団体の活動内容等については【別紙】をご参照ください。

【裏面あり】



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



2 過去4年間の横浜市からの受賞団体

まちづくりアワード<功労部門>	
令和7年度	一本松まちづくり協議会（西区）
	泉ゆめが丘土地区画整理組合（泉区）
令和6年度	三春の丘まちづくり協議会（南区）
令和5年度	住みよいまち・本郷町3丁目地区協議会（中区）
	川和町駅周辺西地区土地区画整理組合（都筑区）
令和4年度	大船駅北第二地区市街地再開発組合（栄区）
	瀬谷駅南口第1地区市街地再開発組合（瀬谷区）

お問合せ先	
（「まちづくりアワード<功労部門>」及び「認定NPO法人ミニシティ・プラス」について）	
地域まちづくり課担当課長	阪本 Tel 045-671-2665
（「一般社団法人 ^{よしだまち} 吉田町名店街会」について）	
関内関外事業推進課担当課長	太田 Tel 045-671-4862



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



一般社団法人吉田町名店街会

歴史的な街並みを活かした若手主体の取組による賑わい創出や社会課題の解決に貢献



横浜ジビエフェスタ



よしだまち防災フェスタ

【活動場所】

よしだまち
横浜市中区吉田町本通り

【活動内容・期間】

1950年代の戦後復興期に整備された防火帯建築が連なる特徴的な街並みと公共空間を活かし、2010年頃から春～秋に年数回「吉田まちじゅうビアガーデン」を継続実施しています。通りを歩行者天国化し、約35店舗が一体となった大規模イベントとして賑わいを創出してきました。さらに、ジビエフェスタや防災フェスタへと取組を発展させ、害獣問題やフードロスへの理解促進、防災意識向上など社会課題解決にも寄与しています。

【効果・特筆すべき点】

地域資源を活かした商店街の若手経営者が主体となった取組を通じて、吉田町の認知度向上、来街者増、周辺エリアとの回遊性向上を実現するとともに、持続可能な商店街モデルを確立しています。

【令和7年（2025年）度の活動実績】

- ・吉田まち春一番ビアガーデン 5月3日
- ・吉田まちじゅうビアガーデン 9月27日
- ・横浜ジビエフェスタ 2月14日

認定NPO法人ミニシティ・プラス

子ども主体の社会参画と協働が育む持続可能な地域まちづくりに貢献



ジュニア編集局



ミニヨコハマシティ企画会議

【活動場所】

横浜市都筑区・みなとみらいを中心に市内各地

【活動内容】

「まちはそのに暮らす人、かかわる人たちが創り上げていく」という理念から、まちの中で暮らす人が「まちについて知り」「まちのことを思い」「まちにかかわる」ために有効な事業を行っています。特に未来を担う子どもたちが、自由な発想で社会について知り、体験し、考えるチャンスをつくり、その中で自分らしさが活かせる生き方を自分の力で見つけられるように促しています。「まちづくり」を通して、大人も子どもも、誰もが社会の一員として認め合い、助け合う大切さを楽しみながら学ぶことを目指し、次のような活動をしています。

・ミニヨコハマシティ

19歳以下のこどもが主体となり、選挙で選ばれた市長を中心に、仕事、買い物、選挙などを通じて「自分たちの理想のまち」を数日間つくり上げる、こどものまちづくりプログラムです。大人は原則口出しせず、こどもが自由な発想でまちを運営し、社会の仕組みを楽しみながら学びます。

・ジュニア編集局

横浜市内の小学生～高校生が「ジュニア記者」となり、子ども目線で地域の魅力やニュースを取材・発信するプロジェクトです。取材記事はWebサイトや年1回の「ジュニアタイムズ」紙面で公開されます。

・特命地域子どもアクター

神奈川県内の小中高生が「特命」を受け、大人と一緒に地域の課題解決やまちづくり活動に参加するプロジェクトです。子どもの視点や発想を実際のまちづくりに活かし、愛着や主体性を育むことを目的とした取り組みです。